



近江商人と長生き

近江商人余話3

◇近江商人の中でも、成功した大商人で、長寿を保った人は少なくない。店の第一線を退いても、なお矍鑠（かくしゃく）として支配力を維持していた。

◇日野の豪商中井源左衛門の初代が九十歳。八幡商人岡田八十次は八十三歳。西川傳右衛門は北海道に進出し、松前藩から重用された商人グループのリーダーであったが八十三歳。京都で活躍した藤原忠兵衛が九十二歳。日野商人の先達として御殿場に進出、仙台へも一番乗りした山中兵右衛門が九十歳、等々である。

◇湖東商人の先駆けで、年齢でも最高と思われるのが星久の松居久左衛門遊見で八十六歳。北海道へ進出、明治期の関東財界の大物であった前川太郎兵衛が八十三歳。貧農より身を興し、明治の綿業界に君臨した薩摩治兵衛は七十九歳で、家督を譲ったあととも店に出て活躍した。現(株)ツカモトコーポレーションの祖、塚本定右衛門家も初代が八十一歳、二代目が八十歳であった。

◇これらはすべて人生五十年といわれた時代のこと。商道の極意をわがものとした五十歳以後に、これだけの活躍期間があれば、商売の成功は約束されていたとも言えよう。

思い出の石山寺



山中島好子 (石山出身)

私の郷里にある石山寺は琵琶湖の南端に近く、瀬田川の右岸に位置します。七四七年、聖武天皇の祈願所として良弁（ろうべん）僧正が開きました。山門は後に源頼朝の寄進によるもので、門をくぐれば石畳の参道が続き、石段を登れば寺名の由来となった石山があります。珪灰石が重なって巨大な岩盤となったもので、国の天然記念物に指定されています。岩盤の上に立つ本堂は一〇九六年に再建されたものですが、県下最古の建造物として国宝です。本堂と礼堂の間には、紫式部が「源氏物語」の構想を練ったとされる「源氏の間」があります。本尊の如意輪観世音像は、身の丈五・三メートルのヒノキの寄木造りで国の重要文化財ですが、三十三年に一度しか開帳されない秘仏です。

多宝塔は山門と同じく、頼朝の寄進により建立された日本最古の木造多宝塔で国宝であり、内部には鎌倉前期の仏師・快慶作の大日如来坐像が安置されています。

「曙はまだ紫にほと、ぎす」の句が刻まれた芭蕉の句碑や、近江八景「石山の秋月」で知られる月見亭もこの近くにあります。

石山寺は平安時代以降、「枕草子」「蜻蛉日記」「更級日記」「和泉式部日記」など数々の文学作品に登場することでも知られますが、とりわけ縁の深いのが「源氏物語」です。

伝承では一〇〇四年、今から約一〇〇〇年前、紫式部が当山に参籠したのが中秋の名月の夜で、心すみわたりにわか靈感を得て、須磨・明石の巻の発想を得たとされます。

村上天皇の皇女選子内親王が、未だ読んだことがない珍しい物語を一條院の後・上東門院に所望したため、女房の紫式部に命じて新作物語を書かせようとした。そのため式部は七日間石山寺にこもりました。折りしも名月が琵琶湖に映えて、それを眺めていた式部の脳裏に一つの物語の構想が浮かび、とりあえず手元にあった大般若経の料紙にそれを書き

記したと石山寺縁起にあります。

当時は観音信仰が盛んで参詣者は絶えず、紫式部もそんな大宮人のひとりでした。

「めぐりあひて見しやそれとも分かぬまに雲がくれにし夜半の月影(百人一首)」などの名歌で知られる歌人であった紫式部は、「源氏物語」の一作によって、大女流作家の名をほしいままにしています。本名や生没年は定かではなく、一説では家庭的には薄幸であったともいわれ、物語完成後しばらくして四十歳前後で他界したともされています。

ともあれ今や「源氏物語」は世界文学のなかに大きく位置づけられる名作であり、王朝ロマンに思いをはせた才女に、執筆の動機と場所をあたえた石山寺は、いまでも変らぬ雅で静寂な趣を漂わせていて、私の郷土の誇りとなっています。

ごくろうさま しゃくなげ会・会員一同

当会の細野豪志さんが、野田内閣においても、現下もつとも困難な課題を担う環境・原発担当大臣に任命されました。「おめでとうございます」と言うのが常套句ですが、何か違和感があります。その理由①与えられた任務がかつてないくらいのも重責であること。②この人は大臣になったぐらいで満足する小粒のタマではないこと。そこで、もつとも適切なお挨拶を。心から「ごくろうさま」と申しあげます。

わが誇り― 細野環境・原発担当大臣



大橋 勝(彦根出身)

この六月、細野豪志氏が三十歳台の若さで原発担当大臣に就任し、この九月、環境大臣も兼務しました。国難に真っ向から対峙するその任務は、まことに責任重大です。

群小政治家が、政局の泥仕合に狂奔する姿から遠く離れて、早くも着々と地道な成果を積み重ねています。

私は同県人として、また彦根東高校の三十九年違いの先輩として、その労苦に思いを巡らすとともに、大きな誇りを感じます。東北の地元の方々や、報道機関、事務方からの信頼もいや増していると聞くと、わがことのようにうれしく思います。

強い決意で



衆議院議員 細野 豪志(近江八幡出身)

「しゃくなげ会」のご開催を祝し、ご盛会をお喜び申し上げます。平素より温かいご支援を賜り、心より感謝しております。東日本大震災の発生により、尊い命が奪われ、そして今尚、多くの方が困難な日々を送られています。また、福島第一原発の事故による放射能に対する不安は、国民生活に大きな影響を及ぼしております。私は現在、それらの事故収束に向け全力で取り組んでおり、なかなか地元に戻ることができません。この収束を果たせなければ、私自身が政治家として存在意義を問われる事になります。限られた時間の中で、しっかりと成果をお示しできるよう取り組みます。収束には困難を要しますが、今も発電所内にて命がけで作業にあたっている皆さんに感謝し、一日も早い事態の収束に全力を尽します。 「しゃくなげ会」の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。結びに、会の益々のご発展と、皆様のご健勝を心より祈念申し上げます。(二〇〇一一・九・一八)



昨年春に平泉・中尊寺に行こうと計画し実行する寸前に中止になって、それ以降行ける機会が無く今になっています。

今春、小笠原諸島と平泉中尊寺が世界遺産に登録され、あきらめかけていた気持ちが行きたい願望が変わって来ました。

しかし年齢の高齢化と共に、兄妹二組の夫婦四人の体調が全員万全でないとは難しく、近くでの旅行が続いています。今後も京都と沼津を起点とした近距離旅行が多くなりそうです。

この春は岐阜羽島で京都の二人と落ち合って、宿場めぐりの旅に出掛けることになり、以前に馬籠、妻籠、奈良井宿には行った事があり、今回はこの三か所を含め高遠の桜や北杜市の山高神代桜などを見て来ました。高遠の桜は少し早かったが山高神代桜は最高で、その中でも一本の大きなしだれ桜は身延久遠寺からの分木だそうで大変見事でした。

五月には、小中学校の同窓会が七十歳で終わっていたのですが、七十五歳になった記念に開催する事になり、所沢に居る小中学時代にバッテリーを組んで居た友人と、二人で参加する事になり現地で落ち合いました。

亡くなった同級生の法要を兼ねての同窓会に参加し、小学四年で転校した男性が初めて横浜から出席したりして、楽しいひと時を過ごす事ができ、帰りは友人とドライブを兼ね車中思い出話をしながら走行し、沼津駅から「あさぎり」で所沢に帰りました。

3

六月に入って高速道路料金の土日祭日上限千円が、六月十九日で終了するので、急遽十一、十二の土日を利用して、大河ドラマで賑わっている長浜や周辺及び彦根に行き、久しぶりに長浜の黒壁や小谷城址などを散策し、翌日は彦根へ回り十数年ぶりの彦根城に行ったりして楽しい二日間でした。

交通費は高速料金往復二千円とガソリン代を入れても一万円以内で納まりました。

これからお互いの体調が良い時を見計らいながら、ドライブ旅行を続けて行こうと思っています。

原発の国ひた走る秋隣

ふみ一



近江の名句・名歌 ⑦

みずうみに水ありし日の恋唄をまことしやかに弾くギタリスト 塚本邦雄

塚本邦雄（一九二〇—二〇〇五）は滋賀県五個荘出身の歌人。

寺山修司、岡井隆とともに「前衛短歌の三雄」と呼ばれる。

第一歌集「水葬物語」で三島由紀夫らの絶賛を浴びて以来、八十冊を超える歌集があるが、現在なお古本値段の高価なことでも知られる。

今年の四月浜松から大阪へ転勤になり、十三年ぶりに関西へ戻る事になった。その後も、月に一、二回浜松（浜北）へ行く用事があり、新幹線の車窓からの眺めも感じが変わってきた。先日、もうすぐ浜松の案内放送を聞きながら、新居、弁天島付近の浜名湖を見ていたら、この辺りでの、釣りをしたことや蛸やアサリ取りが何故か懐かしく思い出された。静岡県在住の頃は、時折帰る折の瀬田川橋梁からの琵琶湖を、同じような思いで見えて、人の気持ちの移り変わりの機微に驚かされた。確かに滋賀に比べると、温暖な気候で老後もこのまま遠州にと思ったこともあった。浜松へ来るとき持ってきていた冬用のコートは、東北方面への出張の際に着ただけで、持って帰ることになったが、今冬から活躍することになるだろう。遠江を去ることになり、静岡の想い出を振り返ってみた。

平成一〇年一〇月四日浜松（当時は浜北市）へ来て半年あまりの日曜日、朝の新聞を見ると次の記事が目にとまった。

「遠州7不思議の一つにも数えられ、ほぼ七年に一度現れては一週間ほど消えてしまう「幻の池」。前回出現した平成元年以来九年ぶりに姿を見せ・・・場所は水窪町の池の平」。

これを見て悪い虫が蠢きだした。近くの安売り店で歩きやすい運動靴を調達、とるものも取りあえず一路水窪へ。場所は佐久間町境近くの標高八八〇米の亀の甲山の中腹とか。詳しい場所は分からないが、近くへ行けば何とかなるだろう。案の定、水窪へ着くと、急遽つくったらしい手書きの案内板が出ていた。

運動不足気味の体には二時間余りの登りは少しきつかったが、昼過ぎには「幻の池」に辿り着け、遠州に来て半年余りで九年分の経験ができたかな？と喜んでいた。

その後、数年を経てそろそろ現れるか？と新聞に注意していたが、一向に出てこない。半ば諦めていたら、昨年七月今回は十二年ぶりで出現した。でも今回は、前週の大雨による落石等により林道は通行止めで登山はできなかった。まさか、その半年余りの後遠江を去ることになるとは夢にも思っていなかった。私の遠州人は「幻の池」に始まり「幻の池」に終わった感があり、次に「幻の池」が現れる頃、再び静岡に来ていことになるかも知れない。

滋賀の味 ⑦ 「小鮎の佃煮」



小鮎は鮎の子どもではありません。琵琶湖だけにいる小さな鮎のことです。琵琶湖が海から離れ、鮎が湖に閉じ込められたのは二、三千万年昔の話です（お前見たのか？）。学者がそう言うのです。この小鮎を、たとえば狩野川へ放流すると大きく成長します。しかし、琵琶湖にとどまる限り小鮎のままです。これを近江商人の成功譚に結びつけて語る人が多いようです。

小鮎の佃煮は、近江に古くから伝わる伝統の炊き方により丁寧調理されたものです。炊きたてのご飯との相性が抜群で、苦味と甘味が同時に味わえる逸品です。



滋賀県の文化施設 5 旧西川家住宅（近江八幡市立資料館）



西川（利右衛門）家は屋号を大文字屋と称して蚊帳や畳表を商い、江戸、大坂、京都に店を構えました。現在資料館として入館できる施設は、3代目によって宝永3年（1706年）に建てられたもので、昭和58年1月に国の重要文化財に指定され、昭和60年10月より33ヶ月の工期を経て、改修されました。

昭和5年に後継者が無いまま11代目が亡くなり、約300年にわたって活躍した西川家は終焉を迎えました。

西川家の家訓は「先義後利栄・好富施其徳」。義理人情を第一とし、利益追求を後回しにすることが商売繁盛となり、得られた富に見合った人間形成を行え、と説いています。

市立資料館は「郷土資料館・歴史民俗資料館・旧西川家住宅・旧伴家住宅」の4館で構成されています。

- ☆滋賀県近江八幡市新町二丁目二二
- ☆JR近江八幡駅よりバス（長命寺行き）で「小幡町資料館前」下車
- ☆名神自動車道・竜王ICより二五分（八幡山方面へ）
- ☆九・〇〇一・一六・三〇 月曜は休館 ただし五・十・十一月は休館日なし
- ☆料金五〇〇円 小、中学生三〇〇円
- ☆お問い合わせ 0748-32-7048

5

次回例会予告

日時 二〇二二・三・四（日） 一二・三〇より
会場 三島市民文化会館 二階和室
会費 二〇〇〇円
お土産 スゴモロコの佃煮

滋賀県出身のお知り合いをご紹介ください



伊吹山お花畑

この会報を長く続けたいと思います。原稿は左記へお寄せください。
会報をお望みの方は返信用封筒を同封し、左記へお申越しください。

（発行所）〒410-0874 沼津市松長九二一-六一〇〇三 三上 八郎